

2011年(平成23年)10月13日(木曜日)

増毛山道体験
トレッキング
今年は125人参加

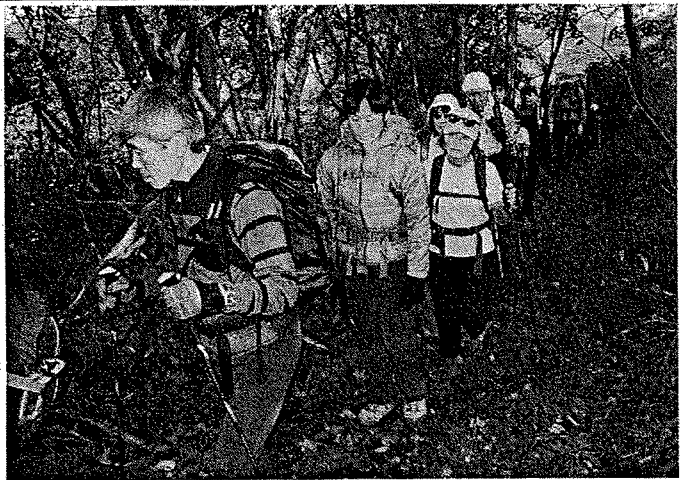
「歩きやすい」評価の声

来年度も継続利用方法模索

【増毛】留萌振興局、NPO法人増毛山道の会共催の増毛山道体験トレッキングが、八日まで通算四回にわたって行われた。総参加者は百二十五人。参加者を対象にしたアンケート調査では「道内の復元されたほかの山道と比べ、増毛が一番整備されている」と高い評価を受けた。振興局では、来年度も体験トレッキングを継続する一方、アンケート調査の結果を踏まえて課題を検討し、今後の利用と整備方法を探る考えだ。

(木村繁)

増毛山道は、天狗岳、雄冬、絡路として開通した。山、浜益御殿など千以上の山頂付近を通り、増毛町別対地区津田屋と石狩市浜益地区幌港と雄港間に定期船が就航して以来、増毛山道を利用する(一八三九年)に漁場間の連人が減り、道跡はさまざまに埋もれてしまった。平成二十年から増毛山道の会が復元作業を開始し、増毛側の入口となる津田屋から十一地点までを復元。さらに同山道と岩尾地区を結ぶ五の生活路



8日に行われた増毛山道体験トレッキング

め約八時間かけて歩き通した江別市の会社員細野邦男さん(五九)は「グループで参加しました。道内の復元された山道を歩いていますが、増毛山道は歩きやすいですね。これほど整備されているとは思いませんでした。達成感がありますね」と話した。所管の留萌振興局生活環境部環境生活課では「大勢の人から意見を聴き、増毛山道の利用、整備のあり方を検討するため体験トレッキングを試験的に始めました。数年間、実績を積んで整備方法、歴史の探勝などを含めた幅広い利用方法を考えたいと思っています」としている。

も復元した。体験トレッキングは、増毛山道と岩尾地区を結ぶ生活路

を合わせた約十六のコースで行われた。八日のトレッキングに参加し、休憩時間を含